

第66期中間報告書

平成22年4月1日～平成22年9月30日

ホームページのご紹介

●TOPページ

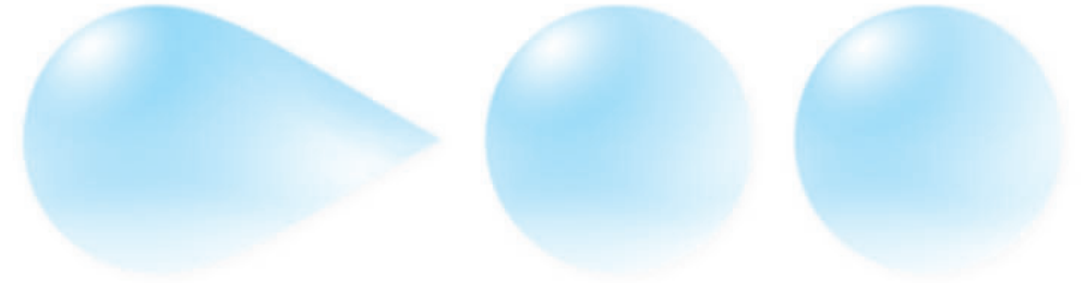


<http://www.organo.co.jp/>



IRページ
最新のIR情報を提供しております。

製品情報ページ
水処理装置や水処理薬品などの各種取扱製品を掲載しております。



Ecologically Clean

IRカレンダー (平成22年10月1日～平成23年9月30日) ※平成22年12月3日現在の予定です。

- 第2四半期決算説明会
- 決算説明会
- 招集通知発送
- 中間報告書発送
- 決議通知・報告書発送



オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8 経営企画部 TEL.03-5635-5111
ホームページアドレス <http://www.organo.co.jp/>



オルガノ株式会社

企業コンセプト

Ecologically Clean

企業理念

オルガノグループは
かけがえのない地球の未来を見つめ
“心”と“技”で水の価値を創造する

経営理念

- お客様にとって、最適な商品・技術・サービスを創造し、提供し続ける企業を目指す
- 株主様にとって、常に成長し、安定収益をあげる魅力的な企業を目指す
- 社員にとって、働き甲斐のあり、誇りの持てる企業を目指す

株主の皆様へ



代表取締役社長兼CEO
橋本喜代志

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。
ここに当社の第66期事業年度（平成22年度）中間期のご報告をさせていただきます。

1. 当第2四半期連結累計期間の概況

当期間におけるわが国経済は、アジア地域の成長などに伴い緩やかな回復基調で推移いたしました。海外経済の減速や円高傾向の継続などに伴い回復のペースが鈍化しており、景気の先行きに対する不透明感が強まっております。

当社グループを取り巻く市場環境は、海外においてはアジア地域の電子産業を中心に設備投資が活発化いたしました。国内では生産水準の回復がみられたものの、依然として設備投資は低水準に留まっており、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

このような状況に対応するため、当社グループでは国内の生産・販売体制の見直しや海外事業体制の強化を実施するとともに、コストダウン・生産性の向上に関する施策に取り組んでまいりました。

この結果、受注高、売上高につきましては、アジア地域における電子産業

関連の大型設備投資の受注が大幅に伸長したことに加え、国内においても生産水準の回復を背景に各種メンテナンスや改造工事などのソリューションビジネス、標準型水処理装置・水処理薬品の販売が好調に推移したことから、受注高327億円（前年同期比36.3%増）、売上高257億円（同9.2%増）と前年同期に比べて増加しました。

利益面につきましても、ソリューションビジネスや標準型水処理装置・水処理薬品の販売が順調に推移したことに加え、継続して原価の低減及び固定費の削減に取り組んだ結果、期初予想を上回る営業利益8億円（前年同期は営業損失3億円）、経常利益7億円（前年同期は経常損失4億円）、四半期純利益3億円（前年同期は四半期純損失3億円）と前年同期に比べて改善しました。

当期の中間配当金につきましては、当期間の実績及び次に述べます通期の見通しを勘案し、前期末配当金と同じく1株当たり4円とさせていただきます。

2. 通期の見通し

前述の通り、当期間の業績は比較的順調に推移したものの、急激な円高の影響や世界各国経済のスローダウン傾向などから、景気の先行きに不透明感が強く、設備投資や生産水準の動向は楽観できない状況となっております。

したがいまして、通期の業績予想につきましては期初予想を据え置き、受注高600億円（前期比2.1%増）、売上高600億円（同12.1%増）、営業利益25億円（同35.4%増）、経常利益23億円（同48.2%増）、当期純利益13億円（同101.2%増）を見込んでおります。

3. 今後の経営方針

株主の皆様が既にご高承の通り、日本経済は大きな変革期を迎えております。また、世界的な水ビジネスへの関心の高まりは多くの企業を水処理業界へと参入させる呼び水となり、国内外における受注競争は日々厳しいものとなっております。

このような事業環境の変化に対応すべく、当社グループは本年4月より事業構造の改革と体質改善を実行し、売上・利益水準の回復を目指した中期経営計画をスタートさせております。本計画では「Customer Value創造企業」を経営ビジョンとして掲げ、お客様のあらゆるニーズに応えることはもちろん、技術・サービスとコストの両面からお客様の価値と満足を創造する企業を目指しております。

① プラント・ソリューション・機能商品3事業の一体運営による再強化

電子産業向けの大型水処理プラントへの対応を中心に据えた体制から、海外も含めた産業全般分野で、プラント・ソリューション・機能商品3つの切り口からビジネスを展開する体制へと再編し、お客様視点でのコストダウン、ソリューションサービスのメニュー・体制の拡充に取り組むとともに、お客様の新たなニーズを創造する新技術・新商品の開発に取り組んでまいります。

② 海外事業部門の強化

海外でのビジネス拡大に向け、積極的に経営資源を投入し、既に拠点を持つ中国・台湾・東南アジア地域で水処理トッププレイヤーを目指すとともに、新たな地域への展開にも取り組んでまいります。

③ 経営・事業基盤の強化

地域・お客様に密着した営業・サービス体制の拡充と、グループマネジメント体制の強化に取り組むとともに、グループを挙げてコンプライアンスの徹底に向けた取組を進めてまいります。

4. 最後に

当期は、中期経営計画の初年度であり、平成24年度の計画達成に向けて、グループを挙げて取り組んでおります。

株主の皆様におかれましても、今後ともますますのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

平成22年12月

▶ プラント事業

電子産業分野

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄工程に欠かせない超純水の製造装置をはじめ、各種の排水処理設備、外部環境へ排水を出さないクローズドシステム、排水からの有価物回収システムなど、電子産業分野においてオルガノは世界トップレベルの技術を誇っています。



一般産業分野

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプ、繊維・染色、自動車、メッキ工業など、あらゆる産業に対して、プロセス用水の処理システムや、各種の排水処理設備、水の回収・再利用システムなどを提供し、高い評価をいただいています。



電力分野

高い信頼性を求められる火力・原子力発電所向け水処理プラント。オルガノはこの分野で圧倒的なシェアを誇っています。なかでも発電所における主要水処理設備である復水ろ過・脱塩装置は、オルガノの独壇場として長年トップシェアを堅持。国内のみならず東南アジアや米国の発電所向けにも水処理装置を納入するなど、その技術力の高さを証明しています。



上下水道分野

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。その処理を担う浄水場では沈でろ過、膜ろ過、活性炭やオゾンによる高度処理など、下水処理場では生物処理などオルガノの得意な技術が活用されています。



医薬品分野

安全性が特に重要視される医薬品製造プロセス。ここでもオルガノの高度な技術が活かされています。注射用水をつくる蒸留水製造設備や製薬設備を細菌から守る純粋蒸気発生器など、高純度でバイロジェン（発熱性物質）を含まない、高い安全性を有する水をつくるシステムを提供します。



▶ ソリューション事業

メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

提案型サービス

既設水処理装置の設備診断とあわせて改善・改良提案を行います。また、薬品使用量や廃棄物の削減など、環境負荷低減に貢献する提案を行います。

水処理アウトソーシング受託事業

■ 包括メンテナンス

お客様の工場にある水処理装置の点検と消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括受託することにより、安心して装置をお使いいただけます。



■ 運転管理

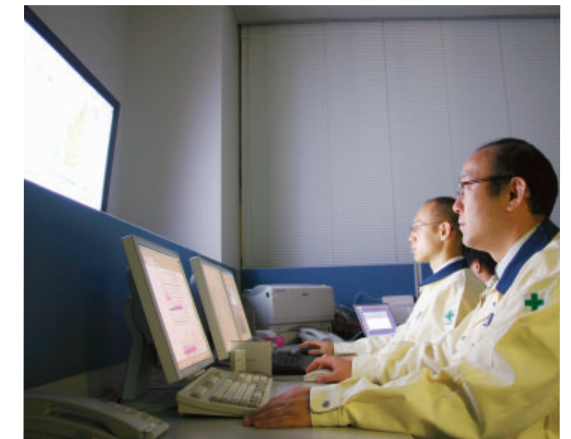
ノウハウを有した運転担当者を派遣し、状況に応じた適切な運転管理を行うことにより、お客様の負担を軽減し、安定かつ効率的な運転を実現します。

■ 処理水供給

お客様の工場内にオルガノが水処理装置を設置し、使用量に応じた処理水を供給します。お客様のニーズも高まっており、大規模な水処理加工業務を受託しています。

■ 遠隔監視

オルガノ本社内にある監視センターで、お客様の水処理装置の運転状況を遠隔監視しており、異常があった際の早急な現場対応をバックアップします。装置の運転データから傾向変化を読み取り、予測監視により水処理プラントのトラブル防止に貢献します。



▶ 機能商品事業

標準製品

純水装置はもちろん、水に新たな機能を付加する機能水製造装置など、短納期・低コストで豊富な商品ラインアップを有しており、電子産業から食品工場、病院、研究所、レジャー施設まで、ニーズに合わせて広く用いられています。



キャビネットタイプ純水装置 PROシリーズ

超純水製造装置 SDAシリーズ

水処理薬品

冷却効果を高め省エネにつなげる冷却水処理薬品やボイラを効率的に運転するための処理剤、廃棄物の削減につながる排水処理剤など、水処理用の多様な薬品をラインアップ。装置と組み合わせたトータルシステムを提案し、安定運転を実現します。



食品加工材

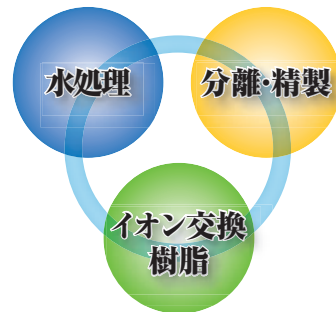
食品加工材の分野では、主にハムや即席めんの改良に用いられるリン酸塩が国内トップシェアの実績。その他、第三のビールに使用されるエンドウたん白をはじめ、様々な品質改良剤、食品素材を開発・製造・販売しております。オルガノの技術は豊かな食文化の創造にも貢献しています。



イオン交換樹脂

食品・医薬品精製システムをトータルサポート

イオン交換樹脂は、工場ボイラー水や製品洗浄用水をつくる目的で多く利用されており、お客様の製品生産を陰から支えています。一方で、食品・医薬品の分野では、アミノ酸、ポリフェノールなどの機能性食品素材の抽出やオリゴ糖などの糖の脱色、医薬品成分の抽出・精製など、メインの製品生産工程でもイオン交換樹脂や合成吸着剤が利用されています。当社は、水処理や分離・精製で培った技術と長年の実績をベースに、お客様に対してメインの製品生産工程から、純水・軟水製造、排水処理、水回収などの周辺設備まで、イオン交換樹脂を通じてあらゆる面からトータルサポートできるソリューションシステムを提供しています。



ベトナムに現地海外法人を設立

本年8月にベトナムのホーチミン市に海外現地法人オルガノ（ベトナム）を設立し、9月から営業を開始しました。ベトナム経済は、高成長が見込まれており、発電所の新設や日系企業の生産拠点を進出も相次いでいます。純水製造装置などの用水設備や各種排水処理設備の需要拡大が期待されるため、これらへの機動的な対応を目的としています。

当社はかねてより、マレーシア、シンガポール、タイに現地法人を開設し、東南アジア地域での水処理装置拡販に取り組んでおり、ベトナム国内においても、オルガノ（アジア）のハノイ事務所を通じて火力発電所、製薬工場、食品工場などに水処理装置を納入してまいりました。今回の現地法人の設立により、インドシナ地域におけるネットワークをさらに拡充し、より一層の事業拡大を図ります。



オルガノ（ベトナム）オフィス

中国拠点に研究センターを設置

中国での水処理事業拡大のため、中国蘇州市の現地法人オルガノ（蘇州）に研究センターを設置しました。オルガノ（蘇州）は中国での水処理事業の拠点として事業展開を図っていますが、従来からの分析機能に加えて、新たに実験機能を付加することにより、現地ニーズへの迅速な対応を可能としました。生物処理、活性炭、イオン交換樹脂などの評価試験設備を導入することにより、中国で需要の増加が見込まれている排水処理・排水回収設備の受注促進に繋がります。

また、当社は平成19年より、中国における水環境保全技術の研究に携わっている中国在住の大学院生を対象に、奨学金を通じて支援する事業（通称：オルガノ賞）を行っており、今年7月の開催で4回目を迎えました。これまでの累計の応募者数は200人を超え、45人が受賞しています。当社は、最新の排水処理・回収技術と将来性のある研究者への支援によって、中国の水環境の保全に貢献してまいります。



オルガノ（蘇州）研究センター

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期末 (平成22年9月30日現在)	前期末 (平成22年3月31日現在)	比較増減
資産の部			
流動資産	47,904	45,422	2,481
固定資産	25,606	26,042	△ 435
有形固定資産	22,228	22,569	△ 341
無形固定資産	401	431	△ 29
投資その他の資産	2,976	3,040	△ 64
資産合計	73,510	71,464	2,046
負債の部			
流動負債	25,329	24,042	1,287
固定負債	8,334	7,672	662
負債合計	33,664	31,715	1,949
純資産の部			
株主資本	39,678	39,543	134
資本金	8,225	8,225	—
資本剰余金	7,508	7,508	—
利益剰余金	24,256	24,120	136
自己株式	△ 311	△ 309	△ 1
評価・換算差額等	△ 189	△ 133	△ 55
少数株主持分	357	339	17
純資産合計	39,846	39,749	96
負債純資産合計	73,510	71,464	2,046

◆**流動資産**
売上債権は減少したものの、現預金及び仕掛品を中心としたたな卸資産の増加により2,481百万円増加しました。

◆**流動負債**
仕入債務の増加などにより1,287百万円増加しました。

◆**固定負債**
長期借入金の増加などにより662百万円増加しました。

◆**純資産の部**
四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加などにより96百万円増加しました。

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	比較増減
売上高	25,719	23,557	2,162
売上原価	18,762	17,854	907
売上総利益	6,957	5,702	1,255
販売費及び一般管理費	6,058	6,099	△ 40
営業利益又は営業損失(△)	898	△ 397	1,295
営業外収益	73	112	△ 38
営業外費用	221	184	36
経常利益又は経常損失(△)	751	△ 469	1,220
特別利益	29	44	△ 15
特別損失	31	28	2
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	749	△ 453	1,202
法人税等	368	△ 99	467
少数株主利益	14	2	11
四半期純利益又は四半期純損失(△)	366	△ 356	723

◆**売上高**
アジア地域における電子産業関連の大型案件の工事が順調に推移したことに加え、国内の各種メンテナンスや改造工事、標準型水処理装置・水処理薬品の売上が増加したことなどにより前年同期と比べて2,162百万円増加しました。

◆**営業利益・経常利益**
ソリューションビジネスや標準型水処理装置・水処理薬品の売上が好調に推移し、原価低減や固定費削減に継続して取り組んだ結果、前年同期と比べ営業利益・経常利益ともに増加し、黒字を確保しました。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,712	1,894
投資活動によるキャッシュ・フロー	39	93
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 218	△ 1,733
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 10	85
現金及び現金同等物の増加額	2,523	338
現金及び現金同等物の期首残高	12,630	7,551
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,153	7,890

◆**営業活動によるキャッシュ・フロー**
2,712百万円の資金流入となりました。主な資金の増加は税金等調整前四半期純利益、減価償却費の計上及び売上債権の減少によるものであり、主な支出はたな卸資産の増加によるものです。

◆**投資活動によるキャッシュ・フロー**
39百万円の資金流入となりました。主な資金の増加は定期預金の減少によるものであり、主な支出は有形固定資産の取得によるものです。

◆**財務活動によるキャッシュ・フロー**
218百万円の資金流出となりました。主な支出は配当金の支払によるものです。

当第2四半期末の現金及び現金同等物は前期末に比べて2,523百万円増加し、15,153百万円になりました。

セグメント別業績

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	前期末 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
■ 受注高			
水処理エンジニアリング事業	21,216	—	—
機能商品事業	11,544	—	—
■ 売上高			
水処理エンジニアリング事業	15,830	—	—
機能商品事業	9,888	—	—
■ セグメント利益			
水処理エンジニアリング事業	101	—	—
機能商品事業	797	—	—

【**水処理エンジニアリング事業**】
当事業においては、アジア地域における電子産業関連の大型設備投資の受注が大幅に伸長したことに加え、国内において生産水準の回復を背景に電子産業・一般産業関連の各種メンテナンスや改造工事などソリューションビジネスが好調に推移したことから、受注高21,216百万円、売上高15,830百万円、セグメント利益101百万円となりました。

【**機能商品事業**】
当事業においては、国内において企業業績や生産水準の回復を背景に、標準型水処理装置・水処理薬品の売上が増加いたしました。また、食品添加剤はほぼ前期並で推移しております。この結果、受注高11,544百万円、売上高9,888百万円、セグメント利益797百万円となりました。

当社グループでは、従来事業のセグメントを「水処理装置事業」、「薬品事業」の2区分に分類集計していましたが、当期から大型水処理設備の製造販売及びその維持管理を行う「水処理エンジニアリング事業」、標準型水処理装置及び各種水処理薬品等を製造販売する「機能商品事業」の2区分に分類集計してあります。

注）本報告書は決算短信の数値、文章を基に作成しております。その後に公表される可能性がある訂正情報や業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては、当社ホームページの掲載資料などにてご確認ください。

会社概要

商号 オルガノ株式会社 (英文 ORGANO CORPORATION)
 創業 昭和21年5月1日
 資本金 8,225,499,312円
 従業員数 連結 1,681名 (単体 687名)
 事業内容 当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品、食品加工材の販売を主な事業としております。

主要な事業所

本社 〒136-8631
 東京都江東区新砂1丁目2番8号
 開発センター 相模原
 工場 つくば、いわき
 事業所 長崎
 支店 北海道、東北、中部、関西、中国、九州、台湾

主要なグループ会社

■ 連結対象子会社

(国内) オルガノ北海道(株) (海外) Organo (Asia) Sdn.Bhd.
 オルガノ東北(株) 奥加諾(蘇州)水処理有限公司
 オルガノ東京(株) 奥璐佳瑞科技股份有限公司
 オルガノ中部(株)
 オルガノ関西(株)
 オルガノ九州(株)
 オルガノプラントサービス(株)
 オルガノフードテック(株)
 オルガノアクティ(株)

取締役・監査役・執行役員

取締役社長兼CEO	橋本喜代志
取締役兼専務執行役員	鬼頭和夫
取締役兼常務執行役員	近藤昭夫
取締役兼常務執行役員	中村聖和
取締役兼常務執行役員	力武一夫
取締役兼常務執行役員	奥園修一
取締役兼執行役員	浦井紀久
取締役兼執行役員	渡辺大輔
取締役	山村正春
常勤監査役	小柴勲
監査役	川村克彦
監査役	高德宗忠
執行役員	小暮茂
執行役員	峯下幹雄
執行役員	伊藤智章
執行役員	砂岡好夫
執行役員	古内力
執行役員	羽多野敦

(注1) 橋本喜代志及び鬼頭和夫は代表取締役であります。
 (注2) 川村克彦及び高德宗忠は社外監査役であります。

■ その他グループ会社

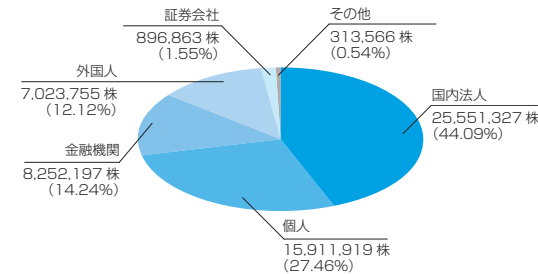
(国内) オルガノ山下薬品(株) (海外) Organo (Thailand) Co., Ltd.
 オルガノ・ハイテック(有) Organo (Singapore) Pte Ltd
 環境テクノ(株) Organo (Vietnam) Co., Ltd.
 オルガノエコテクノ(株)
 東北電機鉄工(株)

株式の状況

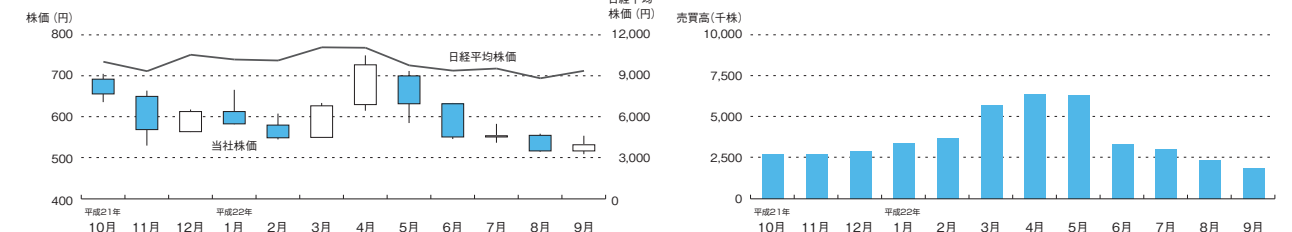
- 発行可能株式総数 126,960,000 株
- 発行済株式総数 57,949,627 株
- 株主総数 8,917 名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東ソー株式会社	23,877	41.20
ザバンクオブニューヨーク&ジャスディック トリリーターアカウント	1,798	3.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,705	2.94
株式会社みずほ銀行	1,000	1.72
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	848	1.46
ザバンクオブニューヨークノントリーター ジャスディックアカウント	826	1.42
みずほ信託銀行株式会社	775	1.33
明治安田生命保険相互会社	486	0.83
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー レギュラーアカウント	455	0.78
バンクオブニューヨーク&ジャスディック アカウント ジエイビーアールアイエスジー エフイーイーイー	439	0.75

● 所有者別株式分布状況



● 株価及び売買高の推移



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日
 単元株式数 1,000株
 公告掲載方法 電子公告
 公告掲載アドレス <http://www.organo.co.jp/>
 ただし、事故その他のやむを得ない事由によつて電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 中央三井信託銀行株式会社
 連絡先 〒168-0063
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
 電話0120-78-2031 (フリーダイヤル)
 受付窓口 中央三井信託銀行株式会社 本店・全国各支店
 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
 ホームページアドレス http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

株式に関する諸手続きのお申し出先について

- 住所変更、配当金受領方法の指定、単元未満株式の買取請求及び買増請求などの株式の諸手続きにつきましては、お取引のある証券会社にお申し出ください。
- 証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主様の株式の諸手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行にお申し出ください。
- 未受領の配当金のお支払につきましては、株主名簿管理人である中央三井信託銀行の全国各支店で取り扱いたします。